

## ACP Journal Club に掲載される記事と掲載誌の引用特性

西村 飛俊

愛知淑徳大学大学院文学研究科文学専攻図書館情報学コース

## 1.概要

臨床医が読むべき文献を引用指標などから割り出すことは難しい。一方で、ピアレビューによる評価から読むべき文献を推奨する試みは多くあり、信頼を得ている。その一つである ACP Journal Club（以下 ACPJC）は、専門家に選定された論文の要約集であり、米国内科学会（American College of Physician）の発行する Annals of Internal Medicine 誌に年 12 回掲載されている。臨床研究等の論文を厳しく評価し、一定の水準であることを認められたものを掲載している。元来 Evidence-Based Medicine (EBM) を志向して企画され、米国ではもとより、わが国でも EBM 実践のためのツールとしてよく評価されている。そこで、ACPJC に掲載された記事とその掲載雑誌について、これを臨床医が読むべき文献群と仮定する。その文献群に計量書誌学的分析を行うことで、定量的評価指標が、どこまで有効かを分析した。

## 2.対象と方法

対象は ACPJC に掲載された論文と、その論文の掲載雑誌である。期間は 2005 年～2009 年の 5 年間とした。ACPJC は独立した雑誌として出版されていたが、2008 年に親雑誌の Annals of Internal Medicine 誌の一コーナーに戻っているため、その前後を対象とした。一般的な項目（掲載誌、論文著者の所属、被引用数、掲載誌の引用指標）と、ACPJC 独自の項目（カテゴリ、分野の適合度評価、掲載しコメントした著者とその所属）についても分析した。このデータの抽出は手作業で行った。データの抽出と評価を行い、その後被引用数と掲載誌の引用指標に対するそれぞれの数値の相関を分析した。被引用数については Thomson Reuter 社の Web of Science を、掲載誌の引用指標は同社の Journal Citation Reports2011 を用いた。相関分析には IBM 社の SPSS と Microsoft Excel を用いた。

## 3.結果

2012 年 6 月 18 日現在の時点で分析は継続中である。既に出ているデータから、雑誌の各引用指標と ACPJC への採用率の相関係数を表に示した。これを見ると、インパクトファクターなどが高い雑誌が ACPJC に載っているということになる。もともと臨床試験は総合誌に載せられることが多いのが要因であると考えられる。更に分析を進めていく。

表 各雑誌指標と ACPJC への採用率の相関係数（Pearson の順位相関）

|           | インパクトファクター | 5年インパクトファクター | 最新文献指数 (II) |
|-----------|------------|--------------|-------------|
| 相関係数      | .624**     | .605**       | .574**      |
| 有意確率 (両側) | .000       | .000         | .001        |
| N         | 30         | 30           | 30          |